

## 「境港市スポーツ推進審議会」議事録

【日 時】平成27年3月24日（火）16:00～17:30

【会 場】中央公民館

【出席者】梅木千賀子（会長）・竹内栄（副会長）・田中茂人・角和子  
渡邊憲二（5名、敬称略）

【欠席者】門脇眞澄・善波周・岩田慎介・嘉賀収司（4名・敬称略）

【事務局】佐々木邦広（教育長）

沼倉加奈子（生涯学習課長）

竹内勝（生涯学習課文化体育係長）

梅谷俊一（生涯学習課文化体育係主任）

《内容》

### 1. 開会

### 2. 教育長あいさつ

市民体育館の使用停止により、市民に迷惑をおかけしている。対応につき、体育協会にご協力をいただいております。利用団体の中には、第2体育館やその他の体育施設に回っていただいたり、使用回数を減らしていただいているところもある。市では、一日も早く補強工事が完成するよう、努力しているところである。また、竜ヶ山陸上競技場は改修が終わり、竜ヶ山球場では、LED式のスコアボードが設置されるとともに青いラバーフェンスがつき、子どもがケガをしないよう対策が取られた。全面改修ではないが、可能な範囲で環境を整備していきたいと考えている。

市民会館の建て替えは、本市単独では難しいため、防衛省の「美保飛行場周辺まちづくり構想策定支援事業」において、防災施設であるとともに、自衛隊との交流施設として整備を検討している。その中で、ホールの収容人数や座席の形態をどのようにするか、図書館・会議棟・美術展示室などの機能を入れられないか、検討しているところである。また、竜ヶ山エリアも構想の対象となっており、その中で、竜ヶ山エリアに屋根付きの屋外体育施設を作ろうという案が出ているが、体育館なのか、あるいは屋根付きの広場なのか、形態についてはまだ固まっておらず、今後、市民の意見を聴きながら検討していきたい。現在、防災担当が中心となって進めているが、教育委員会としても意見を出していきたい。市民からの要望は、生涯学習課を通して反映していきたい。

また、日本スポーツ振興センターから、海のスポーツによる地域活性化事業の指定を受けている。境港は、砂浜が遊泳禁止になって以降、市民が海で泳がなくなり、その上、渡し船やフェリーがなくなったため、海から故郷の姿を見ることもなくなってしまった。市民が海と親しむ活動ができないか検討しているところだが、現在市内で実施しているボートやペーロンに加え、SUP（スタンドアップパドルボード）という競技も全国的に流行し、注目を浴びている。

### 3. 会長あいさつ

体育館使用停止による影響等につき、後で説明があるので、委員の皆様より意見を頂きたい。

### 4. 報告事項

#### (1) 保健体育費の主要事業について（要旨）

- ・健康ウォークの実施時期及びコースは、今後実行委員会で決める。
- ・日韓口駅伝交流では、韓国選手が国体と重なったため参加できなかったが、今年も引き続き参加を呼び掛ける予定である。
- ・スポーツ広場の芝生化は、toto（スポーツ振興くじ）助成を財源として予定しており、交付が決まり次第、事業実施の予定。

#### (2) 体育施設の利用状況について

別添資料のとおり

#### (3) 市民体育館使用停止に係る対応について

耐震診断の結果、第1体育館のアリーナ棟、武道場棟の強度不足が判明し、2月1日から使用停止とした。残る第2体育館の利用については、希望が殺到するおそれがあったため、希望者による抽選とした他、インドアテニス利用者には、4月以降オムニコートが使えるため、利用を控えてもらっている。また、3月以降は、第2体育館を水曜も営業して頂いている。

地区体育館では、今までほぼ決まった団体が利用していたが、今後はより多くの団体に利用してもらうため、利用調整ルールを定め、利用調整会に出席するためには団体登録が必要とした。

学校体育館では、学校教育を優先し、夜間20時～22時に限り一般に開放。今まで学校によって利用調整方法にばらつきがあったが、今回を機に統一することとし、市民体育館・地区体育館利用団体から利用希望を提出してもらった。重複があった場合に調整することとし、実際、一部の学校で希望が重複したが、各団体とも週に最低1回は利用できることとなった。

高校は県立のため踏み込めていない。境高校はまだ開放施設として登録できていないが、大会等については、個別に相談してもらえれば対応は可能とのこと。総合高校は、小体育館を現在も開放している。

#### (4) 海のスポーツによる地域活性化事業について

日本スポーツ振興センターがスポーツ振興くじを使った助成のあり方を検討する中で、協力団体の公募があり、境港市が応募したところ12都市の1つとして当選した。境港では、海のスポーツを通じた地域活性化や、子どもがたくましく育つための方策など、地域が求める、新しい助成金の案をまとめ、提出した。その中で、地域スポーツコーディネーター育成事業は、スポーツ大会等をコーディネートし、情報発信する役目を果たすとともに、総合型スポーツクラブの核となる人を雇うための助成金を想定。地域スポーツ活動推進事業は、既存の助成金では対象にならない小規模な大会への助成を想定している。助成により、海のス

ポーツに特有の、救命艇や選手輸送用のバスなどが整備できる。最後に、地域スポーツ環境整備事業として、競技施設の整備だけでなく、スポーツにつながるための環境の整備についての助成ができないか、提案している。美保湾では、砂浜でのボードウォーク、監視小屋などあれば人が来やすくなると思う。中海側でも、艇庫の老朽化への対応できるのではないかと想定している。

#### (5) その他

<会長> 体育館の使用停止に際して体育協会でも対応を検討したが、使用停止が決まった直後、市から近隣市町村に声をかけていただき、施設が空いていれば境港市民も受け入れられると言ってもらったので助かった。当初、問題がもっと出るかと思ったが、利用者同士が譲りあい、混乱なく対応できている。

ただ、先ほどの説明の中で、3人1組で登録し、団体として認められて初めて調整会に入ることができるとのことだったが、中には、同じ人が同一競技で色々な団体を作っているところがある。テニスコートの改修が終わり、インドアテニス利用団体には屋外での利用をお願いしている中、このようなやり方で調整会に参加されると、今まで週1回しか使えていなかった団体も使えなくなってしまい、調整会が大変なことになる。どのような団体を認めるかどうかは、もう少し考えていただきたい。

<会長> 事務局からの説明に対し、質問はありますか？

<委員> 利用が一番多い競技は？

<事務局> 施設によって利用状況は異なるが、市民体育館ではテニス利用が最も多い。

<委員> 学校体育館の利用では同様の問題なかったか？

<事務局> 3人以上で団体登録というのは地区体育館の場合のみ。市民体育館は1名でも団体として扱っていると思う。学校の体育館では、長年利用している団体があったため、調整段階で利用団体から不満の声をいただいた。

<委員> 地区体育館の利用をそのような取扱いにした場合、利用が増えることが想定されるが、それで利用調整がうまく回るかが問題。

<事務局> 各団体の構成員を提出してもらうかどうかは別として、連絡先等を把握しておきたいこともあり、また、幸神体育館は米子市内の利用が多かったため、市民の利用を優先したいということもあり、今回以降、団体登録制度にさせていただきたい。調整会以後は米子市民の利用もOK。

<委員> 団体に名簿提出させることはできないか？

<事務局> あくまで任意だが、利用団体には名簿の提出を提案している。

<委員> 形式的であっても、名簿を提出してもらう必要がある。

<委員> スポーツ広場芝生化は、小学校と同じ方式か？その場合費用はあまりかからないと聞いているが。

<事務局> 鳥取方式で検討しており、予算は散水のためのスプリンクラー設備が主な内容。

<委員> 体力テストでは、H27は標本数取れるか？また、標本数は年代ごとか？

<事務局> 標本数は年代ごとに決められている。来年度の実施につき、標本数を達成するにはPR方法や当日のスタッフ確保等、課題が多い。

- <委員> 体育の日は色々な行事が重なる。PR不足を感じる。市職員がもっと積極的に参加を。
- <委員> 昨年の体カテストの時には、市民体育館でラジオ体操に参加していた人に体カテストに行くよう呼びかけた。昔に比べ健康志向、体カテストへの意識は高まっていると思う。他人との比較ではなく、自分の体力の変化を確認する機会なので、必要性を訴えていくことが必要。
- <委員> 自分の団体は高齢者が多いため、体カテストの全種目ができない人もいる。
- <事務局> 昨年は栄養士会が健康コーナーを開催し、参加者に評判良かった。
- <委員> 市から健診結果が届く際、あわせて体カテストのPRをしてはどうか？
- <事務局> 健康推進課と連携しながら、PRに努めていきたい。

## 5. 意見交換

- <委員> 少子化のためスポ少の団員が減っており、民間スポーツクラブとの子どもの取り合いが生じている。複数の団で合同チームを組まないと出場できないところもある。父子家庭・母子家庭では、保護者側に役割をこなす余裕がないため、子どもを入団させない家庭もある。団員減少により、スポ少の予算も厳しくなっている。対策として、サッカーの子が野球の選手不足を補う方法などが考えられるが、大会出場のためにはそれぞれの協会に登録が必要で、登録料も必要になるので、なかなか勧められない。
- <委員> 対策につき、良いアイデアがあれば共有していきたい。市からも情報があればいただきたい。
- <委員> かつて1,500人いた中学校の生徒が今では1,000人に減少。小学校の時にゲームばかりしている子どもいる。関係者で連携して改革をしないといけない。小学校で体を鍛え、運動の習慣をつけると、生涯スポーツにつながる。
- <委員> 体育協会では指導者向けの研修会を行っているが、学校関係者の参加がない。研修に指導者や保護者が参加すると、自分達のやり方の間違っている部分を自覚することができ、効果的だと思うが。
- <委員> 開催時期が悪い。3月だと役員任期が終わる直前であり、次期役員も就任前なので、誘っても参加しようとしない。
- <委員> 開催時期の見直しは検討してみる。
- <委員> 土日だけでも運動すると糖尿病リスクが低くなる。インドアスポーツだけでなく、アウトドアを広めていくことにより、医療費の削減にもつながる。
- <委員> 長野県では、ウォーキングコースを複数作り、完走したら何かもらえるような取組を行い、成果を挙げている。スポーツ広場周辺は良い環境だが、その周辺まで足が向かない。自分は市民体育館でスポーツ教室を開催しているが、参加者は高齢者が多く、教室を止めたら医療や介護につながる人ばかり。
- <委員> 夕日ヶ丘に施設を考えているのであれば、外周を歩けるようなものを検討してはどうか。
- <事務局> 陸上競技場、球場の整備が終わり、スポーツ広場は、助成金が決まり次第芝生化に取り掛かる。生涯学習課の所管ではないが、墓地公園には芝生、遊具もある。現在、国土交通省の事業で中海護岸を活用しようというプロジェクトがあり、遊歩道やウォーキングコー

スというプランも出ている。竜ヶ山に市民の目を向けるよう、PRしていきたい。また、中浜公民館でノルディックウォークの要望が出ているので、来年度、公民館講座として開催し、竜ヶ山を歩くことも考えられる。必要であればスティックの購入等を検討していきたい。

<委員>ノルディックウォークはストックが高価なので、行ける人といけない人が出てくる。道具が要る競技はそのあたりが難しい。

<事務局>海のスポーツによる地域活性化事業につき説明させてもらったが、海に入るだけでなく、海の景色を楽しむ視点も取り入れていきたいと考えている。

<委員>以前、外浜の海岸でキャンプをする人が多かったが、最近はどうか？

<事務局>公共マリーナ付近は利用が多いが、佐斐神町付近は少ない。

<委員>遠方の人には景色が好評だが、地元の人にとっては当たり前の風景になってしまっており、利用の衰退につながっている。

<事務局>公共マリーナの中のシャワーはヨット関係者しか使えないと思っている人が多いので、関係団体と連携しながらPRに努めていきたい。体育館が使えない中、外で出来るウォーキングなどの取り組みも検討していきたい。市民が知らないことが多いという意見も頂いたので、今後の施策に反映していきたい。

<委員>市民が知らないことが多いので、市内にどのような施設があり、どのようなことをやっているかが分かるようなパンフレットを作って周知したら良いと思う。

<委員>米子市内では、老人会が海辺のトイレ等を管理していたが、国有地のため利用料の徴収、テント設置等で制約があり、うまくいかなかった。

<事務局>アウトドアの観点で、関係団体と連携しながら、PRを積極的に行い、体育館が使いにくい状況の中、外でできるウォーキングなど、新たなことに力を入れていきたいと考えている。皆さんからもご意見をいただければと思う。

<委員>市では、今日出た意見をまとめていただきたい。私達もできるだけ外に向かってアピールしていきたいと思うが、委員の皆さんには、良いアイデアがあれば市にも情報提供してもらえればと思う。